

教育・授業改善のための互助的・自律的な

教員コミュニティを考えるワークショップのご案内

MOST フェロシッププログラムから発展した教員コミュニティ（以下、MOST コミュニティ）では、相互研修型FDの機会として京都大学高等教育研究開発推進センターによって運営された全10期・10年間余の活動を経て、教育改善に向けた活動が自律的・精力的に継続されています。MOST パターン・ランゲージの会では、科研費基盤研究(B)「オンライン授業のピアレビューを活用した相互研修型大学横断FDによる教育の質向上」（研究代表：京都大学 飯吉透）による支援を得て、実践コミュニティとしてのMOST コミュニティの特性や成功の秘訣を考察した「教育に情熱を注ぐ教員を後押しするコミュニティのこぼれ」というパターン・ランゲージを開発しました。

本研究会では、MOST コミュニティ内外の大学教員を対象とし、このパターンを用いて、教育改善に取り組む大学教員と教員による自律的に持続・発展可能な実践コミュニティについて考察するワークショップを、対面開催します。

当日は、パターンとは何なのか、どう効果的に使うのかという紹介から始まり、実際にパターンを用いたグループワークを通じて、自ら互助的に活動する教育実践コミュニティのあり方や、それに参加する教員自らの歩み方や成長について考えます。さらに、ワークショップ後半では、自分用のパターンの種（パターンの原型）の作成にも挑戦し、最後にワークショップを振り返って、効果的なワークショップのデザインのコツについても考察します。

関係者一同、教育・授業改善に情熱を持った大学教員の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

※関連リンク

MOST フェロの活動記録と現在の活動紹介：<https://mostf.pep-rg.jp/home>

MOST パターン・ランゲージの会の活動公開：<https://mostf.pep-rg.jp/researches/researchgroup1>

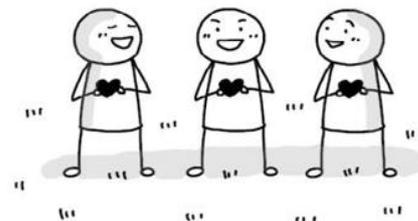
<開催概要>

月 日：2023年12月3日（日）13:00～17:30

場 所：立命館大学大阪いばらきキャンパス AN328 教室（対面実施）

対 象：MOST コミュニティに関係する、または興味のある大学教員

内 容：（1）教育改善と教員コミュニティについての経験談を語り合う
（2）経験談とMOST コミュニティのパターンを融合して自分ら使えそうなパターンの種をまとめる
（3）コミュニティでの学び合いを考えるワークショップのデザイン（ワークショップの振り返り）



招聘講師：株式会社クリエイティブシフト コンサルタント 阿部有里 氏

（プロフィール）株式会社クリエイティブシフト 慶應義塾大学SFC研究所 所員。

慶應義塾大学卒業後、外資系コンサルティングファームに就職。コンサルタントとして、数々のプロジェクトの業務改革や戦略立案を担当。

個々人の内側から変化を起こし、新しい動きを生み出していくためにはパターン・ランゲージが有効であると確信し、2015年より慶應義塾大学教授 井庭崇が代表を務める、(株)クリエイティブシフトにて、パターン・ランゲージの制作、活用支援を行っている。

主 催：MOST パターン・ランゲージの会（科研費基盤研究(B)「オンライン授業のピアレビューを活用した相互研修型大学横断FDによる教育の質向上」（課題番号：22H01024）の支援を得て開催する。

申し込み：右の参加登録用のURLからご登録をお願いします。<https://forms.gle/1K5yGT8ehZb8tbfS8>

企画運営：MOST パターン・ランゲージの会

登録フォームへのリンクです

立命館大学共通教育推進機構 長田尚子

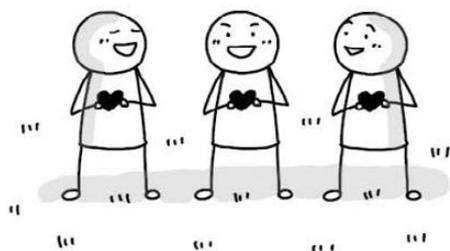
Mail: osada@fc.ritsumei.ac.jp



「教育に情熱を注ぐ教員を後押しするコミュニティのことば」からご紹介

A コミュニティとしての姿

肯定の文化



結論を急がずじっくりと聴く

Context

仲間の実践に関して話を聴いている。

Problem (その状況において)

仲間の話を聴いていると、自分がかつて迷ったこと、失敗したことなどが思い浮かび、ついつい早まって、可能性を狭めるようなコメントをしてしまうことがある。仲間の挑戦を応援しているつもりが、否定している雰囲気になり、挑戦することを諦めさせかねない。

Solution (そこで)

何か気になる点があっても、話が少しずれていると思っても、まずはじっくり聴くことから始める。様々な制約が気になるが、最初からあまり品定めをせず、結論も急がないことだ。仲間が考えを整理することを手伝いながら、本当に大切なことは何かを一緒に考えていこう。

Actions (例えば)

- ・ 仲間の取組をしっかり理解する
- ・ その授業の目的は何なのか一緒に考える
- ・ その分野の専門家として敬意を払う

Consequence (その結果)

一人ひとりが授業実践に熱心に取り組む姿に対して敬意をもって接し、肯定的に受けとめ合うことで、相互交流が深まる。その結果、困難を感じていた教育改善にも挑戦する雰囲気が出てくる。多様な分野の仲間から自分が思ってもいなかった視点を得られるようになり、自分自身への理解も深まる。

E コミュニティへの歩み出し

参加することから



やってみることでその先が開ける

Context

コミュニティで積極的に活動しようと思っている。

Problem (その状況において)

自由な雰囲気のコミュニティであっても、節目の行事やイベントが開催されている。そうした機会では、自分が今まで経験がなかった活動への関わりや、苦手だと思っていることにも挑戦する必要が生じ、戸惑ってしまうことがある。

Solution (そこで)

メンバーとの交流を目指し、巻き込まれてみるつもりで、慣れない活動にも積極的に参加してみよう。多様な背景を持つ仲間を思いやる気持ちや、自分自身も楽しむ気持ちがあれば、尊敬できるロールモデルに出会うことができるはずだ。

Actions (例えば)

- ・ 実践交流会に参加する
- ・ 親睦を深めるためのオンライン飲み会に参加する
- ・ 実践交流会で話題提供をする

Consequence (その結果)

周囲を巻き込み笑顔にする遊び心や教育改善の本質を伝えようとする意気込みなど、今まで自分の経験の範囲では知り得なかった広がりや深さを体験することができる。そのような機会を通じて新しい自分に出会うとともに、コミュニティにおける居場所を見つけることにつながる。